

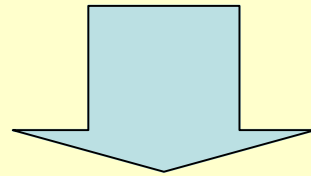


# サンゴ礁保全・再生に向けての 学会としての諸課題

東京工業大学大学院情報理工学研究科

灘岡 和夫

第10回国際サンゴ礁シンポ(2004)  
「危機にある世界のサンゴ礁の  
保全と再生に関する沖縄宣言」



サンゴ礁保全再生行動計画  
(アクションプラン)

日本サンゴ礁学会・サンゴ礁保全委員会

# 行動計画の内容:

1. サンゴ礁生態系の基本的特徴と役割・価値の評価
2. サンゴ礁生態系の危機に関する認識とその共有化
3. 危機をもたらしている要因・構造の包括的把握
4. 保全・再生の目標の明確化
5. 行動計画の実施状況の定期的レビューと評価結果の公開
6. サンゴ礁再生技術－可能性と限界

## 6. サンゴ礁再生技術ー可能性と限界

### a) 世界の先端レベルにある再生技術の一層の発展

- ・「量」(サンゴ被度等)のみならず「質」(生物多様性等)の再生へ
- ・「サンゴ群集の再生」から「サンゴ礁生態系の再生」へ
- ・「要素技術」から「システム技術」へ
- ・適地選定技術(ゾーニング手法)の確立

b) 再生技術の可能性と意義を明示するとともに、科学的な根拠を最大限明確にしながらその限界・問題点についての適切な把握と適用ルールの確立を行う。安易な開発行為の免罪符になったり、サンゴの違法採取につながったり、さらには人為的な遺伝子攪乱をもたらしたりしないようするための明確な歯止め・適用ルールの確立が必要

# 沿岸生態系保全・再生に向けての 2つの基本的視点

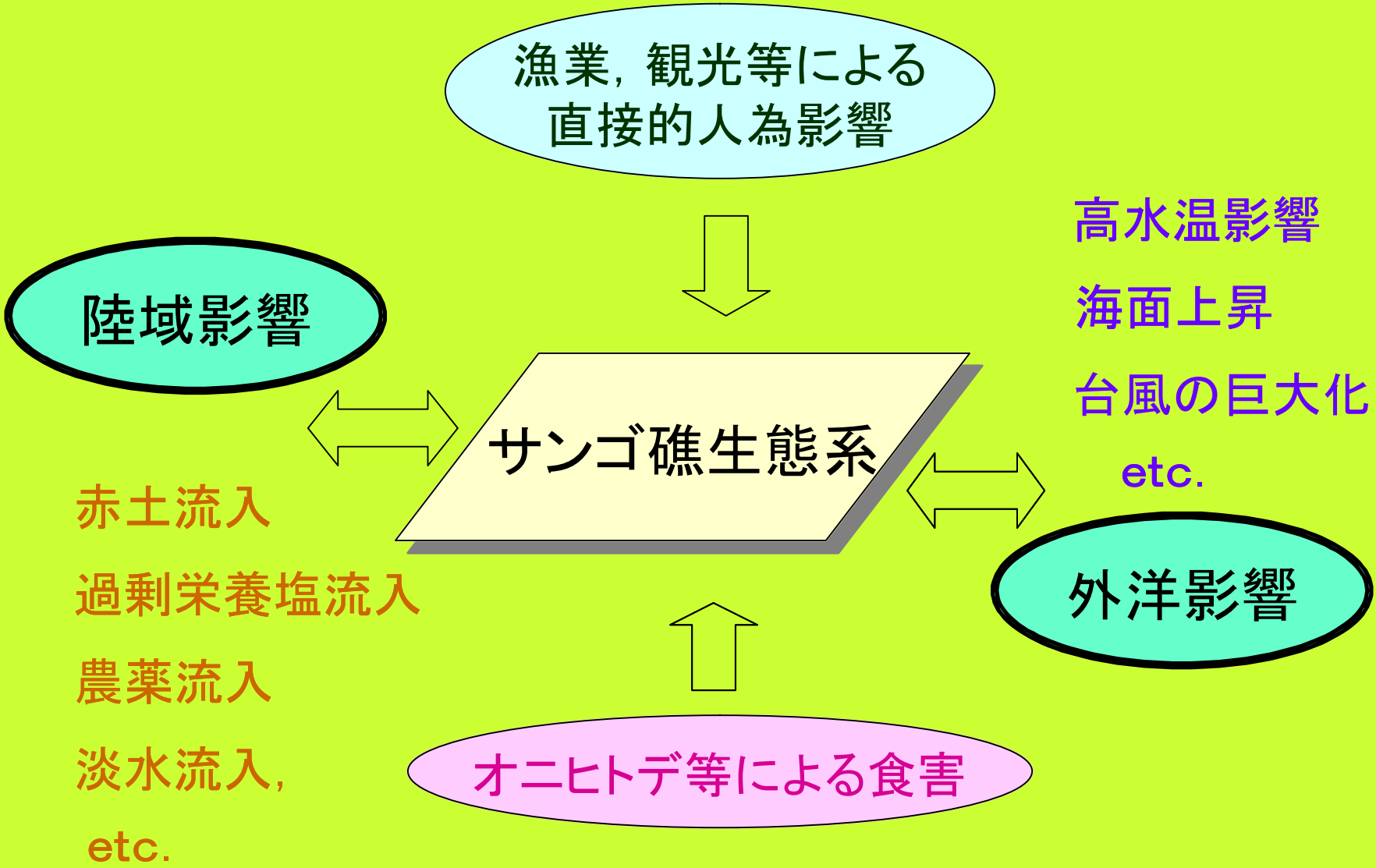
1.

対象とする生態システムへの環境ストレス  
(負荷)を如何にして軽減・除去していくか

2.

与えられた環境ストレスに対する生態システム自体の耐性(体力)を如何にして維持し高めていくか

- ・ 生態システム全体としてのダメージの最小化  
→ MPAの適切な設定と維持・管理
- ・ ダメージからの系全体としての回復を早めること  
(resilienceの強化) → 広域沿岸生態系ネットワーク





# 行動計画の内容(つづき):

7. 目標実現に向けての体制の確立と運営
8. モデル保全・再生海域の設定と戦略的・重点的アクション
9. 今後の保全・再生を担う人材の育成
10. 普及・啓発, 環境教育
11. 人間・社会システムとサンゴ礁生態系  
の間の健全な「かかわり方」のあらたな  
構築に基づく地域づくりに向けての提言  
と「アジア太平洋型保全・再生モデル」の  
具体的提示

# 人間・社会システムとサンゴ礁生態系の 間の健全な「**かかわり方**」のあらたな構築 に基づく地域づくりに向けての提言

単なる個別的保全論に陥らない地域づくり  
の一環としてのサンゴ礁保全

「過去への回帰」→「新たな構築」

イメージとしての「里海」の実体化



# 「アジア太平洋型保全・再生モデル」 の構築と展開

「西洋型」vs.「アジア太平洋型」という論点だけでなく、あるべき「アジア太平洋型」と現実との間の乖離を軸にした議論が重要

# サンゴ礁保全委員会の新体制

## 改革方針

1. ターゲットの明確化
2. プロジェクトチーム形式主体
3. 工程表の明示

## チーム構成

- ◆ サンゴ礁保全再生プロジェクトチーム
- ◆ サンゴ礁広域一斉調査プロジェクトチーム
- ◆ 普及啓発プロジェクトチーム

## 対外連携体制

“サンゴ礁保全再生連絡会議”  
の創設と運営

## 情報発信・交流機能強化

“サンゴ礁保全再生ポータル・ウェブ  
サイト”の開発と運営

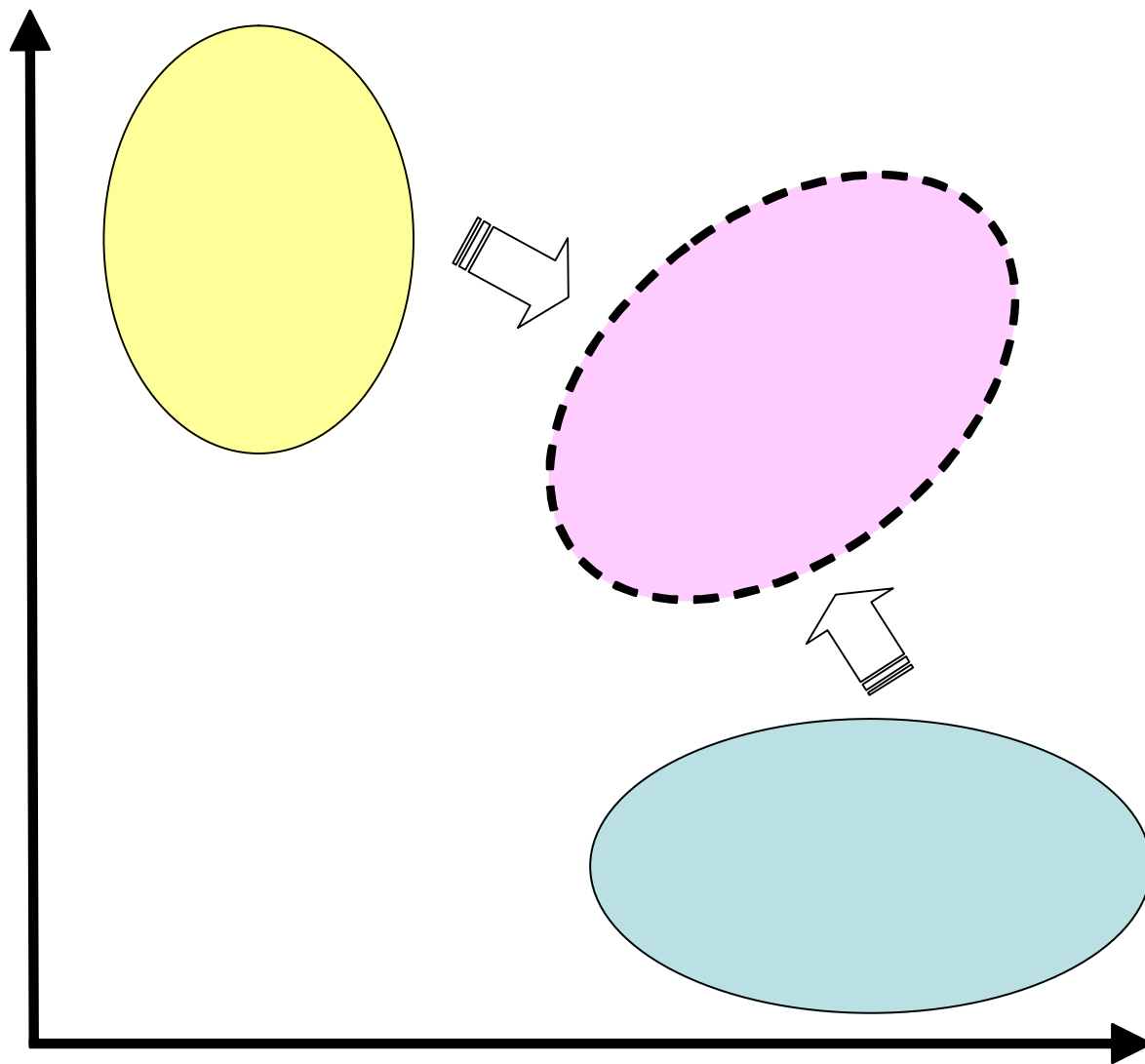
# “サンゴ礁保全学”はどうあるべきか？

- 幅広い学際性
- 強い問題解決志向性

学際的学会としてのサンゴ礁学会は  
この要請を満たしているか？

特に“研究者”の現実の問題への関わり方の問題

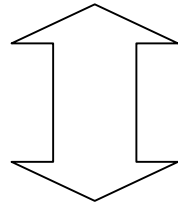
現実の問題解決への関わり



学理の追求

一口に“研究者”といっても:

大学・研究所の常勤研究者



身分が不安定な若手研究者  
(任期付き, ポスドク, 大学院生)

現実の保全問題解決に熱心なのは誰か？



新たな評価軸を

現実の問題解決への関わり

?

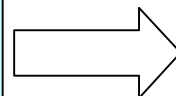
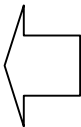
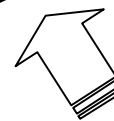
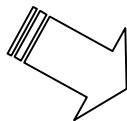
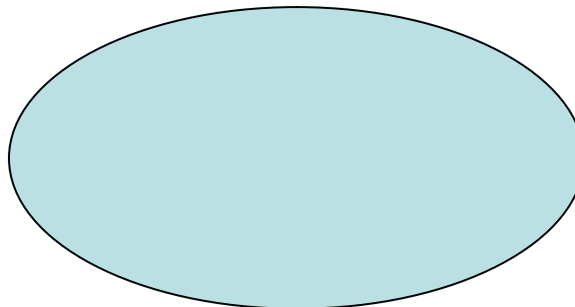
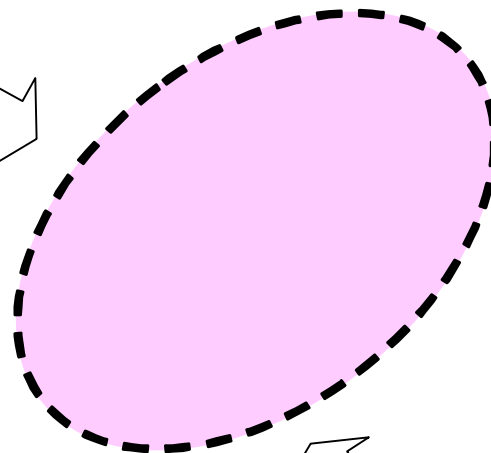
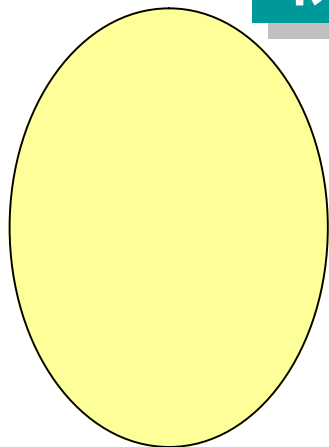
(例)

「保全ジャーナル」

「保全賞」

学理の追求

学術ジャーナル



若い方達に向けて:

もっと現場へ

もっと海外へ